

# ニューヨーク・タイムズがそろばんを紹介！

アメリカ3大紙の一つ、ニューヨークタイムズに全日本珠算選手権大会（8月8日 京都で開催）の様子を中心に‘そろばん’の特集記事が取り上げられました。‘そろばん’をよく知らないアメリカ人から見るとマジックの様に映るみたいですよ！（^^）！

英語サイトは  
こちらから

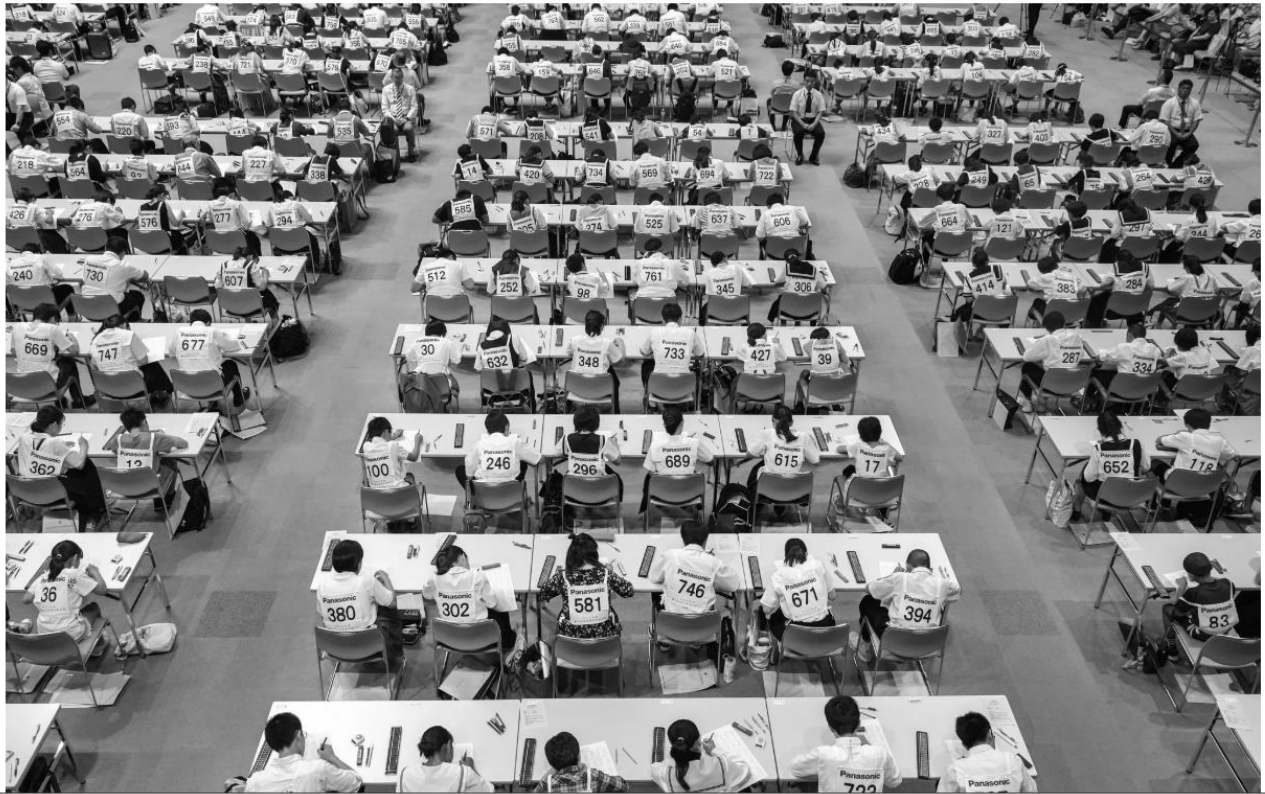


The New York Times

## The Right Answer? 8,186,699,633,530,061 (An Abacus Makes It Look Almost Easy)

The abacus is still taught in Japanese schools, although not as intensively as it once was. But the centuries-old tool is still popular, and national tournaments attract elite competitors.

英語では  
そろばんを  
abacus  
(アバカス)  
と言います



(見出しの和訳) 正解は？ 8186兆6996億3353万61 (‘そろばん’を使うと簡単に出来そう)

以前ほど熱心に…という訳ではありませんが、日本の学校では現在も‘そろばん’の授業があります。数世紀の歴史を持つこの道具は依然人々に受け入れられており、‘そろばん’全国大会には精鋭の競技者たちが集まってきました。

### 記事の一部抜粋

読上げ算で優勝した広島の高校生(ダイキ君)が、すべての数字を正確に聞き取るのはもちろん、それを瞬時に‘そろばん’に置きなおして16桁の正解を導き出したことに仰天！ダイキ君は漫画やゲームが大好きな少年ですが、一方で8年前から毎日3時間‘そろばん’の練習を行っており、億や兆の数字でも耳に入った瞬間に指が自動に動きます。



現在の日本では‘そろばん’は3~4年生に各2時間しか授業を行ないませんが、珠算関係者は「幼児にとって‘そろばん’の上にある珠を数字に置き換えることは簡単。パソコンや計算機と違い、まず珠の動きを見て、そして脳で考えて指を使って珠を動かすという一連の流れが、小さな子どもにとっては、基礎的な学習プロセスになる」と述べています。

幼稚園から‘そろばん’を習い続けている11才のニコちゃんも、左右の指を駆使しながら上手に珠をはじいています。彼女が暗算に取り掛かるときは鉛筆をくるくる回したり、頭を上下に軽く動かしたり、まるで音楽を聴いているように印象的。ニコちゃんのお母さんは「どんなことでも好きになればなるほど上達していく…ということを経験から学びました。ニコが情熱をかけて夢中になれるものが見つかって本当に嬉しく思う」と話しています。